

# 会 報

No.70 (2001年11月)

## 目 次

◆第1回 生命科学教科書作成委員会報告	1
◆2000年度会計収支決算報告	2
◆2000年度会計監査報告	3
◆第24回(2001年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その3)	3
◆第24回総会のご案内	5
◆第2回春季シンポジウムのご案内	5
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	6
○第9回木原記念財団学術賞	6
○2001年度山田科学技術振興財団研究援助	6
○2001年度山田科学技術振興財団研究援助候補推薦要項	6
◆ホームページご利用の案内	8
◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	9
○Cell Signaling and Gene Expression	9
○第11回アンチセンスシンポジウム	9
○千里ライフサイエンスセミナー プレインサイエンスシリーズ第14回 「小胞体ストレスと神経細胞死」	9
○2002年情報学シンポジウム「情報社会のセマンティクス —XMLとSemantic Web、電子政府への展望、ロボットとの共生—	10
○千里ライフサイエンスセミナー「自然免疫と獲得免疫のクロストーク」	10
○第1回日本再生医療学会総会のお知らせ	11
◆人事公募	11
○勸地球環境産業技術研究機構 微生物分子機能研究室研究員募集	11
◆その他	12
○畜産技術協会が2002年度に委託する研究開発課題の募集	12

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

## ◆第1回 生命科学教科書作成委員会報告

小川英行（岩手看護短期大学）

生物科学学会連合（鏡山博行 世話人）から、本学会宛に「高校から大学1,2年につながる生命科学の教科書づくり」をする教科書作成委員会（仮称）に参加するようにとの誘いが8月下旬にあり、学会長の依頼で私が出席した。

開催日時：2001年9月21日（金）14時より

場 所：日本学会事務センター会議室

出席者：鏡山博行（生科連世話人、日本生化学会会長、WGの責任者）、正木春彦（WG座長、日本生化学会）、梶田 忠（日本植物学会、河野重行代理）、高橋正身（日本神経化学会）、松田良一（日本動物学会、日本比較生理生化学会）、嶋田正和（日本生態学会、日本進化学会）、窪川かおる（日本比較内分泌学会）、松香光夫（日本生物教育学会）、小川英行（日本分子生物学会）。

欠席者：布山喜章（日本遺伝学会）、佐久間康夫（日本生理学会）、東中川徹（日本発生生物学会）。

同席：日本学会事務センター

・鏡山世話人から次のような経過報告と趣旨説明があった。

経過報告：生物科学学会連合の連絡会議（5月21日）が、大学初期生物学教育の充実を図るために、ワーキンググループ（WG）を作った。そこでは具体的な方策として、「高校から大学1,2年（学部を問わず）につながる生命科学の教科書をつくる」ことが提案された。それを受けて「教科書作成委員会（仮称）」が発足し、生物科学学会連合の各学会に参加の依頼をした。

参加は上記の13学会、静観を決めた学会は、日本神経科学学会、日本生物物理学会、日本免疫学会、日本薬理学会、保留した学会は、日本細胞生物学会、日本植物生理学会、無回答は、日本解剖学会であった。

趣旨説明：ここ数年、大学生の生物学の学力が大きく低下したと言われている。高等学校での理科の履修時間が減り科目選択制が拡大し、学生は高校理科の一部しか習得せずに大学に入学してくるからであろう。現行の学習指導要領がこの傾向を助長してきたと言われているが、その特色をさらに増幅した新学習指導要領は再来年から高等学校に導入され、新課程で学んだ学生が大学に入学してくる2006年前後には、生物学教育問題がさらに深刻化するであろう。この問題に対処するために本委員会が設置された。

・各委員自己紹介の後、委員長に鏡山博行、副委員長に松香光夫、正木春彦（幹事役）を選出し、今後、委員は出身学会の利害を離れ個人として参加することを申し合わせた。

・委員会の活動方針を話し合い、教科書は、高校生用、大学1,2年次生用、あるいは両方（広く一般の人も含む）を対象にしたものが考えられる。その作成の手順としては、大勢が、大学1,2年次生用をまとめてから、高校生用を作るのが良いのではないかというものであった。

委員会後も、委員の間でE-mailによる問題点の指摘と意見交換が続いており、次のような意見が出ている。(1)高校用教科書づくりの方がより重要で急務ではないか、(2)高校用教科書の内容も、極めて現代的で先端的な内容まで含むものになりたい、しかし、(3)単なる大学1,2年生次教科書のダイジェスト版ではなく、高等学校独自の教育目的と内容を持つように出来ないか等。

本委員会でも取り上げている問題は、我が国の生物学の発展の根幹に関わるもので、そのよりよい解決には、皆さん方大勢の知恵とご協力が不可欠です。そしてまた、この問題は、教科書出版だけでは根本的な解決にはならず、高校教育の主体である教員の再教育や科学研究に繋がる活動も含まなければならないものだと思います。是非皆様方のご意見をお知らせ下さい。

次回の委員会は11月下旬の予定です。

◆日本分子生物学会2000年度会計収支決算報告

2000年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

(第11期 会計幹事 磯野克己)

2000年度日本分子生物学会収支決算報告書

(2000年4月1日 ~ 2001年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
学 会 費	38,970,000	42,376,650	正会員会費： 31,508,500円 (2000：4500円 × 6720名、他：1,268,500円)
賛 助 会 費	1,380,000	1,410,000	学生会員会費： 8,604,500円 (2000：3000円 × 2575名、他：879,500円)
広 告 収 入	1,800,000	2,803,290	海外会員会費(189名)： 749,650円
預 金 利 子	120,000	53,890	入会金(1000円 × 1514名)： 1,514,000円
雑 収 入	50,000	96,200	
寄 付 金 収 入	0	5,500,000	第23回杉野年会長より
収入小計	42,320,000	52,240,030	
前年度繰越金	24,674,565	24,674,565	
合 計	66,994,565	76,914,595	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
事 業 費	17,650,000	18,219,868	
会報発行	3,000,000	3,114,173	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
// オンラインアクセス費用	3,350,000	3,352,500	ブラックウエル社支払い
国際誌購読関係費	1,000,000	644,595	
ホームページ関係費	300,000	1,608,600	コンピュータ購入費
その他	1,000,000	500,000	AMBO 寄付金
評 議 委 員 会 費	6,000,000	5,878,534	
委員会費	1,000,000	286,624	
選挙・名簿作成費	5,000,000	5,591,910	
業 務 委 託 費	10,000,000	12,475,995	
一 般 事 務 費	10,700,000	12,939,540	
印刷費	400,000	460,447	
通信費	9,400,000	11,568,518	プログラム、会報等郵送料
庶務事務費	650,000	650,000	
雑 費	250,000	260,575	
予 備 費	2,000,000	1,762,473	名簿調査カード関係費用
支出小計	46,350,000	51,276,410	
次年度繰越金	20,644,565	25,638,185	
合 計	66,994,565	76,914,595	

## ◆2000年度会計監査報告

2000年度日本分子生物学会収支決算報告に際し、会計帳簿、銀行残高証明書、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第11期会計監査

2001年6月20日 品川日出夫 ㊟

2001年6月21日 武田俊一 ㊟

## ◆第24回（2001年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

第24回日本分子生物学会年会は、2001年12月9日（日）から12日（水）までの4日間、パシフィコ横浜会議センター・展示ホールで開催されます。奮ってご参加ください。

本年度年会の概要は次の通りです。詳細は、同封のプログラムを参照してください。

会 期：2001年12月9日（日）～12日（水）

会 場：パシフィコ横浜 会議センター・展示ホール  
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

参加受付：2001年12月9日（日）午前8時10分より

当日参加費：正会員 10,000円、学生会員 7,000円、非会員 11,000円  
（受付はパシフィコ横浜 会議センターの2階に設けております）

### 発表について

#### シンポジウム・ワークショップ

本年度はシンポジウムとワークショップを並行して進行するプログラムとなっております。

12月9日（日）～12日（水）9：00～11：30および13：45～16：15

（シンポジウム 29テーマ：演題数176件）

（ワークショップ 53テーマ：演題数409件）

#### 一般演題（ポスター）

12月9日（日）～12日（水）9：00～18：30（12日は9：00～15：45）

（演題数 3,029題）

（説明・討論 初日～3日目は16：30～18：30、第4日目は13：45～15：45）

### 企画シンポジウム

12月9日（日）19：00～21：00 A会場（会議センター1階 メインホール）

「21世紀の生命科学：バイオサイエンスは日本の未来を開くか？」

12月10日（月）19：00～21：00 A会場（会議センター1階 メインホール）

「生命科学のニューテクノロジー展望」

### バイオテクノロジーセミナー：

12月9日（日）～12日（水）12：00～13：30 25テーマ

## プログラム・講演要旨集

プログラム・講演要旨集は、11月26日（月）に発行を予定しております。年會に参加を申込まれた方（参加費に講演要旨集1冊の代金が含まれています）、および講演要旨集を申込まれた方には事前にお送りいたします。

## 年會期間中の宿泊のご案内

本年會での宿泊予約業務は、東急観光に依頼しております。会報 No. 69に綴込んだ「宿泊ホテルのご案内」をご利用下さい。なお、お申込・問合せは下記に直接ご連絡下さい。

〒220-6217 横浜市みなとみらい2丁目3番5号  
クィーンズタワーC-17階  
東急観光㈱ 神奈川団体旅行支店  
「第24回日本分子生物学会年會宿泊係」担当：高橋、桑名  
Fax：(045)226-1957 Tel：(045)226-1953  
E-mail：KANAGAWADANTAI@tokyu-tour.co.jp

## 年會に関する問い合わせ先

〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル14階 学会センター関西内  
第24回日本分子生物学会年會 事務局  
Tel：(06)6873-2301 Fax：(06)6873-2300  
E-mail：bunshi24@bcasj.or.jp

なお、年會会期中の関連諸會議については、会場にまだ余裕がありますので、上記までお問い合わせください。會議室は、スクール形式で30名（シアター形式で50名程度）の他、口の字型で20名程度が教室あります。ただし、慣例により会場費は無料ですが、発表機材、食事・飲物代等は會議側で負担していただきます。

## 年會期間中の保育室開設のお知らせ

日本分子生物学会では、本年の第24回年會においてこれまでも要望がありました会場内保育室の設置が認められました。つきましては下記の要領で保育室を開設し、子育て中の研究者のご要望に答えたいと考えております。

第24回日本分子生物学会年會・保育室設置ワーキンググループ

### [保育所の開設]

期 間：2001年12月9日（日）～12日（水）の4日間、

保育時間：年會プログラム開始時間の30分前（午前8時30分）～ポスターセッション終了時間の30分後  
（午後7時、4日目は午後4時15分）を予定

規 模：10～20名（各日）

対 象：生後8週以降から小学校低学年まで

施 設：パシフィコ横浜・會議センター会場内の1室

保育形態：ベビーシッター会社よりシッターを派遣してもらう。

保 育 料：保育室の運営費は、一部を利用者負担、一部を年會からの補助、一部を寄付でまかなう予定です。利用者の負担としては 0歳児：1000円/時間、1歳児以上：800円/時間です。

保育を希望する方は、最終締め切りとして11月30日(金)までに、東大・分生研の大坪久子(E-mail: hohtsubo@ims.u-tokyo.ac.jp) 会員宛にメールで申込みをお願いいたします。預かる子供の人数に定員があるため、定員を超えた場合にはお断りすることがありますので、予めご承知おき下さい。

なお、不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲では補償されますが、第24回日本分子生物学会年会および保育室設置ワーキンググループは、事故に対してそれ以上の責任を負わないことを申し添えます。

#### 〈親子休憩室のご案内〉

本年会におきまして、初めての試みとして、パシフィコ横浜会議センター4階425号室を親子休憩室にいたしました。予約は不要ですので、お子さんと一緒に食事や休憩、あるいはオムツ換えなどに、自由にご利用下さい。ただし、お子さん単独でのご利用はご遠慮下さい。また、今後の参考に利用状況の調査を行いたいと思います。利用された方は、アンケート用のノートに利用者のお名前、所属、お子さんの人数、利用時間、その他の意見などを記入して下さいますようお願いいたします。

なお、親子休憩室内で起きた事故や怪我に対して、第24回日本分子生物学会年会および保育室設置ワーキンググループは一切の責任を負わないことを申し添えます。

第24回日本分子生物学会年会・保育室設置ワーキンググループ

#### ◆第24回総会のご案内

第24回年会の第3日目に、日本分子生物学会第24回総会を、下記の要領により開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願いいたします。

(会長 小川 智子)

記

日 時：2001年12月11日(火) 18:30～19:30

場 所：パシフィコ横浜 会議センター メインホール(1階; A会場)

(ご欠席の会員は、この会報に添付されている委任状をご提出ください)

#### ◆第2回日本分子生物学会春季シンポジウムのご案内

今年5月に盛岡市で開催され、大好評を博した第1回春季シンポジウムに引き続き、第2回春季シンポジウムを広島市で開催することになりました。内容については現在準備中ですが、予定している計画の概要をお知らせします。皆様方のご協力と多数のご参加をお願いいたします。

会 期：2002年5月13日(月)～14日(火)

会 場：広島国際会議場

発表形式：1. 講師による口答発表(2000～2001年度にかけて、目ざましい研究成果を発表された方々に講演を依頼の予定)。

2. 参加者によるポスター発表

オーガナイザー：宮川都吉、土屋英子、平田 大(広島大・院先端物質科学)

問合せ・連絡先：

〒739-8530 東広島市鏡山1-3-1

広島大学大学院先端物質科学研究科 宮川都吉

E-mail: tmiyaka@hiroshima-u.ac.jp

Tel: (0824)24-7763 Fax: (0824)24-7045

## ◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 68（2月号）に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

### 1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

### 2. 提出先

#### ※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 花岡 文雄  
〒565-0871 吹田市山田丘 1-3 大阪大学細胞生体工学センター  
Fax: (06) 6877-9382

#### ※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 岡田 清孝  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科  
Fax: (075) 753-4257

### 3. 提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

## ○第9回木原記念財団学術賞

2001年4月2日に当学会から推薦した松本邦弘氏（名古屋大学理学研究科）が決定されました。  
課題名：モデル生物を用いた増殖・分化制御機構の分子遺伝学的研究

## ○2001年度山田科学振興財団研究援助

2001年7月30日に当学会から推薦した東谷篤志氏（東北大学遺伝生態研究センター）が決定されました。

研究主題：減数分裂過程の染色体ダイナミクスとその制御機構に関する研究

## ○2001年度山田科学振興財団研究援助候補推薦要項

### 1. 援助の趣旨および内容

- 1) 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対象としません。
- 2) 援助額は1件当たり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考いたします。
- 3) 援助金を給与に充てることはできませんが、特に財団が指定した場合を除き、他の用途は自由です。

4) 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。

## 2. 推薦方法

- 1) 推薦者：本財団が依頼した学(協)会の代表者
- 2) 推薦件数：1 推薦者ごとに2件以内
- 3) 推薦手続：推薦者は、以下の書類を整え、ご送付ください。
  - ①所定の推薦書用紙またはその写しに必要事項を記入したもの 4部
  - ②添付書類（研学（'02）—5/8ページ参照）

## 3. 記載上の注意

- 1) 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加してください。
- 2) 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込みをすることについての承諾を得てください。

## 4. 推薦締切期日

本財団に推薦書が到着する締切期日は2002年3月29日です。

## 5. 選考方法

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

## 6. 選考結果の通知

2002年7月末までに推薦者および代表研究者等宛て文書にて通知します。

## 7. 援助金の贈呈

選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈いたします。

## 8. 推薦書送付先および連絡先

財団法人 山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)  
〒544-8666 大阪市生野区巽西1丁目8番1号  
Tel: (06)6757-3311 (代表)

## 9. 研究の成果および会計の報告

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出および研究交歓会での発表をしていただきます。

## 10. 付 記

- 1) 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- 2) 研究成果を文書によって発表される際には、本財団（財団法人 山田科学振興財団、Yamada Science Foundation）の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷1部、また著書の類にあってはその1部をご寄贈願います。
- 3) ご提出いただきました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

## ◆ホームページご利用の案内

学会は、会員数が多くなると性格が変わり、情報交換の場としての機能が重要性を増します。

日本分子生物学会では、情報交換を促進する立場からホームページを重視して、広報幹事を置いています。年会の発表要旨の投稿、修正、閲覧は2000年より開始しておりますが、日常の活動として、

1. 講演会・シンポジウムの案内、
2. 教官・研究員・科学アドミニストレーターの募集案内
3. 関連サイトへのリンク
4. Genes to Cells の閲覧と案内

を行っております。

おかげをもちまして、年会以外の閑散期でも、毎日数十件のアクセスがあるビジネサイトとなっておりますので、高い効率で広報のお役に立つと思います。

掲載をご希望の方は、下記の項目を広報幹事 (nshima@lab.nig.ac.jp) までお送り下さい。

掲載の分量は、すでに掲載されているものを参考にしてください。詳しいプログラム等それを越える分量の多いものを掲載したい時は、PDF ファイルを添付して下さい。ダウンロード出来るようにいたします (PDF ファイルには特殊なフォントや外字を入れないようにしてください)。

### 1. 講演会・シンポジウム

講演会・シンポジウムは、会の目的の簡単な記述と共に、(必須項目) 会の名称、日時、場所、主催者または責任者、申込先または連絡先 (メールアドレス必須)、(オプション) 後援者等、申込手続、プログラム、演者、演題、会のホームページの URL をご連絡ください。

### 2. 教官・研究員・科学アドミニストレーターの募集案内

募集職種、人数、簡単な説明、締切、応募先と責任者 (メールアドレス必須) をご連絡ください。職場のホームページをリンクすることも可能です。詳細な応募規定は PDF ファイルに納めて下さい。

### 3. 関連サイトへのリンク

非営利目的で、学会に関連する団体、組織、集会・シンポジウムは、積極的にリンクしております。

また、自ら管理されているホームページから当ホームページへのリンクの開設の希望に対しては、個人、企業を問わず当学会に不利益を生じない限り、連絡をいただければ承諾をしております。

広報幹事 嶋本 伸雄 (国立遺伝研)

## ◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

### ○Cell Signaling and Gene Expression

日時：2001年11月26日(月)・27日(火)  
場所：神戸国際会議場  
実施機関：日本側：勸交流協会、神戸大学バイオシグナル研究センター  
台湾側：国立成功大學醫學院  
組織委員：日本側：吉川 潮(神大・バイオシグナル研セ)  
小野功貴(神大・バイオシグナル研セ)  
台湾側：Prof. Chang Wen-Chang (Natl. Cheng Kung Univ.)  
Prof. Tang Ming-Jer (Natl. Cheng Kung Univ.)  
講演者：大野茂男(横浜大・医)、吉川 潮(神大・バイオシグナル研セ)、佐谷秀行(熊本大・医)、塩見春彦(徳島大・ゲノム機能研セ)、高橋美樹子(神大・バイオシグナル研セ)、月田早智子(京大・医療技術短大、京大・院医)、永田恭介(筑波大・基礎医学系)、萩原正敏(東京医歯大・難治研)、Wen-Chang Chang (Natl. Cheng Kung Univ., Taiwan),

Ming-Jer Tang (Natl. Cheng-Kung Univ., Taiwan), Ning-Hsing Yeh (Natl. Yang-Ming Univ., Taiwan), Hsin-Fang Yang-Yen (Natl. Defense Med. Center, Academia Sinica, Taiwan), Ruey-Hwa Chen (Natl. Taiwan Univ., Taiwan), Wan-Wan Lin (Natl. Taiwan Univ., Taiwan), Hong-Chen Chen (Natl. Chung Hsing Univ., Taiwan), Hsiao-Sheng Liu (Natl. Cheng Kung Univ., Taiwan), Wen-Chun Hung (Kaohsiung Med. Univ., Taiwan), Chi-Ying F. Huang (Natl. Health Res. Inst., Taiwan)

申込方法：インターネット上にて事前参加登録を受け付けます。参加費は無料です。  
問合せ先：〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2  
千里 LC ビル14F  
日本学会事務センター大阪事務所(学会センター関西)  
Tel : (06)6873-2301 Fax : (06)6873-2300  
E-mail : o-conf@bcasj.or.jp  
URL : <http://www.casjo.org/cellsignaling/>

### ○第11回アンチセンスシンポジウム

日時：2001年11月29日(木)・30日(金)  
場所：千里ライフサイエンスセンタービル(豊中市新千里東町1-4-2 地下鉄御堂筋線千里中央駅下車)  
主催：アンチセンスDNA/RNA研究会  
会頭：金田安史(阪大・院医)  
副会頭：森下竜一(阪大・院医)  
発表内容：アンチセンス分子・リボザイムの分子設計、アンチセンス分子による治療法、リボザイムによる治療法、DDSの開発、遺伝子導入・発現系の構築、その他アンチセンスならびに核酸医薬品に関する広範囲のテーマを対象とします。  
発表形式：招待講演および一般発表(口頭30題程度・討論を含め20分程度、ポスター)  
参加登録費：本会会員(当日登録)  
一般8,000円 学生3,500円  
非会員(当日登録)

一般9,000円 学生4,000円  
懇親会：11月29日(木)の学会終了後に予定しております。  
一般5,000円 学生2,000円  
原則として予約制とさせていただきますので、参加登録時にお申込み下さい。  
開催事務局：〒565-0871 吹田市山田丘2-2  
大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学  
Tel : (06)6879-3901 Fax : (06)6879-3909  
申込み・問合せ先：  
〒530-0047 大阪市北区西天満4-14-3  
住友生命御堂筋ビル13階  
日本コンベンションサービス㈱内  
第11回アンチセンスシンポジウム係  
Tel : (06)6311-2131 Fax : (06)6311-0394  
E-mail : anti@convention.co.jp  
URL : <http://www.poly.kit.ac.jp/seijo/antisense.html>

### ○千里ライフサイエンスセミナー ブレインサイエンスシリーズ第14回

#### 「小胞体ストレスと神経細胞死」

日時：2001年12月14日(金) 10:00~17:00  
場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール(豊中市新千里東町1-4-2 地下鉄御堂筋線千里中央駅下車)  
主催：勸千里ライフサイエンス振興財団  
協賛：勸千里ライフサイエンスセンター  
コーディネーター：今泉和則(奈良先端大・バイオ) 遠山正彌(阪大・院医)  
プログラム：

小胞体ストレスに応答して活性化される転写因子  
森 和俊(京大・院生命科学)  
小胞体ストレスと小胞体関連分解  
細川暢子・永田和宏(京大・再生研)  
小胞体ストレス応答に関与する膜キナーゼの役割  
河野憲二(奈良先端大・遺伝子教育研セ)  
小胞体ストレス蛋白による神経細胞死抑制  
小川 智(金沢大・院医)  
小胞体機能障害を引き起こすプレセニン2異常スプライシング  
片山泰一(阪大・院医)

家族性パーキンソン病と小胞体ストレス  
高橋良輔 (理研・脳科学総研セ)

受講料: (講演要旨集を含む)  
会 員: (大学、官公庁、賛助会員):  
3,000円  
非会員: 5,000円  
学 生: 1,000円

定 員: 300名  
申込方法: 氏名、勤務先、所属、〒住所、TEL、FAX  
番号を明記の上、郵便、FAX または E-mail  
で下記宛お申込み下さい。事務局より受付  
の通知を返送いたしますので、記載した振  
込先口座に参加費をお振込みください。入

金確認後、(通常2週間以内) 領収書兼参加  
証をお届けいたします。

申込先: 千里ライフサイエンス振興財団セミナー (B  
14) 係  
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル 8 階  
Tel: (06)6873-2001 Fax: (06)6873-2002  
E-mail: tnb-lsf@senri-lc.co.jp  
URL: http://www.senri-lc.co.jp  
(注: アドレスの読み誤りが多発しています。  
lsf は「エルエスエフ」、lc は「エルシー」で  
す。)

## ○2002年情報学シンポジウム

### 「情報社会のセマンティクス—XML と Semantic Web、電子政府への展望、ロボットとの共生—」

本シンポジウムは、ネットワーク化社会における情報の円滑な流通と高度な利用の促進を目的に、1984年以来毎年開催してまいりました。例年、研究・開発者と利用者が交流し、情報・知識の利用に関するアイデアや知見を交換する場として、多くの方々に参加いただいております。本年度も、以下の要領で開催いたしますので、奮ってご参加ください。

会 期: 2002年1月17日(木)~18日(金)  
会 場: 日本学術会議講堂(東京都港区乃木坂)  
共同主催: 日本学術会議(情報学研究連絡委員会、情報工学研究連絡委員会)、情報処理学会、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会、日本生物物理学会、日本ソフトウェア科学会

後 援: 科学技術振興事業団、化学情報協会、計測自動制御学会、国立情報学研究所、情報科学技術協会、情報通信学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本機械学会、日本金属学会、日本材料学会、日本社会情報学会、日本生化学会、日本電信電話、日本動物学会、日本図書館情報学会、日本農学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会

運営組織: 情報処理学会情報学基礎研究会を母体とするシンポジウム実行委員会

プログラム:

◆基調講演  
グラウンディングのための社会情報インフラ  
橋田浩一(産業技術総合研)  
メディア論の歴史社会的構図  
水越 伸(東大)

◆招待講演  
データベースの観点から見たXMLの研究

吉川正俊(奈良先端大)  
XML スキーマ言語 RELAX NG

村田 真(日本IBM/国際大)  
Web マイニング

山西健司(NEC)  
電子政府の実現に向けた政策的課題

岡田仁志(国立情報学研)  
電子政府の発展に向けて

中上昇一(日立製作所)  
電子特許庁を目指して

垣本和則(特許庁)  
デジタルコンテンツの個人化とインターフェース  
ロボット

長尾 確(名大)  
ロボットデザイン 実世界インターフェースとし  
てのロボットの存在

松井龍哉(北野共生システムプロジェクト)

◆一般演題 7件

参加費: (論文集代として)

共催学協会員: 10,000円  
学生: 2,500円  
一般: 15,000円

申込方法: Fax、e-mail または、WWW で下記までお  
申込みください(当日受付も可)。

参加申込締切: 2002年1月4日(金)

申込み・問合せ先:

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20

芝浦前川ビル 7F

社情報処理学会 シンポジウム係

Tel: (03) 5484-3535 Fax: (03) 5484-3534

E-mail: sig@ipsj.or.jp

URL: http://www.ipsj.or.jp/cgi-bin/event.cgi

## ○千里ライフサイエンスセミナー「自然免疫と獲得免疫のクロストーク」

日 時: 2002年1月29日(火) 10:00~17:00  
場 所: 千里ライフサイエンスセンタービル5階  
ライフホール  
(豊中市新千里東町1-4-2 地下鉄御堂筋線  
千里中央駅下車)

主 催: 財千里ライフサイエンス振興財団  
協 賛: 財千里ライフサイエンスセンター  
コーディネーター: 審良静男(阪大・微研)  
プログラム:  
IL-18の生物活性と疾患との関係

中西憲司 (兵庫医大・免疫学)  
LPS 認識における TLR4、RP105 および介合する  
MD タンパクの役割

三宅健介 (東大・医科研)  
自然免疫と獲得免疫をつなぐ Toll-like receptors  
審良静男 (阪大・微研)  
ウイルスが誘起するヒト樹状細胞の免疫応答と Toll-  
like receptors

瀬谷 司 (大阪府立成人病七研)  
自然免疫における Toll-like receptor 陽性 T 細胞の役  
割

吉開泰信 (名大・院医・附属病態制御研究施設)  
抗原提示細胞による  $\gamma$  インターフェロン生産と自然免  
疫の活性化

小安重夫 (慶應大・医)

受 講 料 : (講演要旨集を含む)

会 員 : (大学、官公庁、賛助会員) :

3,000円  
非会員 : 5,000円  
学 生 : 1,000円

定 員 : 300名

申込方法 : 氏名、勤務先、所属、〒住所、TEL、FAX  
番号を明記の上、郵便、FAX または E-mail  
で下記宛お申込み下さい。事務局より受付  
の通知を返送いたしますので、そこに記載  
した振込先口座に参加費をお振込みくださ  
い。入金確認後、(通常 2 週間以内) 領収書  
兼参加証をお届けいたします。

申 込 先 : 千里ライフサイエンス振興財団セミナー (Q  
2) 係

〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

Tel : (06)6873-2001 Fax : (06)6873-2002

E-mail : dnp-lsf@senri-lc.co.jp

## ○第 1 回日本再生医療学会総会のお知らせ

日 時 : 2002年 4月18日 (木)・19日 (金)

会 場 : 国立京都国際会館 (京都市左京区宝ヶ池)

会 長 : 井上一知 (京大・再生研)

演題締切 : 2002年 1月22日 (火) 必着

演題申込用紙が必要な方は、事務局まで

FAX にてご連絡いただければすぐ送付させ

ていただきます。

事 務 局 : 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

京都大学再生医科学研究所

器官形成応用講座

Tel : (075)751-4856 Fax : (075)751-4145

## ◆人事公募

### ○財地球環境産業技術研究機構・微生物分子機能研究室・研究員募集

財地球環境産業技術研究機構・微生物分子機能研究室  
では、バイオマス高度利用、CO<sub>2</sub> 固定等、地球環境問題  
に関する幅広い基礎研究を行っております。

研究成果の概略は、本研究機構ホームページ (アドレ  
ス : <http://www.rite.or.jp/>) をご参照下さい。

当研究室では博士号取得者、あるいはそれに準じる研  
究能力を有し、独自で研究計画を立案、実施できる方を  
若干名募集しております。

採用条件および募集の詳細は下記の通りです。

応募締切 : 2001年11月30日 (金)

提出書類 :

- 1) 履歴書 ※上記 A-C の、どの分野の研究 (資格)  
をお持ちか明記下さい。
- 2) 博士論文、修士 (または学士) 論文の要旨および、  
取得技術に関する要約  
(各 A4, 2 枚程度に簡潔に要約、様式は随意)
- 3) 主要論文の別刷り (5 報以内、コピー可)
- 4) 研究業績一覧 (論文、学会発表、特許等) ※A-C  
に応募の場合必須
- 5) TOEIC 点数証明コピー ※D に応募の場合必須

就任時期 : 2001年12月末までの期間で、できるだけ早く  
着任できる方 (給与は年棒制)

選抜方法 : 書類選考の後、個別に面接をして決定

書類送付・問合せ先 :

〒619-0292 京都府相楽郡木津町木津川台 9-2

財地球環境産業技術研究機構

微生物分子機能研究室

Tel : (0774)75-2308 Fax : (0774)75-2321

E-mail : mmg-lab@rite.or.jp

(注) 応募書類郵送封筒には、「微生物研究員  
応募」と朱書してください。

#### 《募集 1》

応募資格 :

- 1) 大学、企業および国立研究所等で下記の研究経験  
のある方

(A) 培養工学分野

微生物のジャーファメンター等による培養、反  
応、および LC, GC 等の機器分析

(B) バイオインフォマティクス分野

ゲノムプロジェクト、あるいはプロテオミクス解  
析等における、ユニックスコンピューター等を使用  
した遺伝子情報解析、あるいは蛋白質高次構造解析

(C) 分子生物学分野

分子生物学、生化学、蛋白質工学分野の研究

- 2) その他

(D) 国際共同研究および調査

TOEIC 730点以上、あるいはそれに準ずる英会  
話および、文書、電子メール等による英語での通信  
能力をお持ちの方

#### 《募集 2》

応募資格 : 募集 1 と同様

応募締切 : 2002年 1月31日 (木)

提出書類 : 募集 1 と同様

就任時期 : 2002年 4月 1 日から

選抜方法 : 募集 1 と同様

書類送付・問合せ先 : 募集 1 と同様

## ◆その他

### ○畜産技術協会が2002年度に委託する研究開発課題を募集します

（鈷）畜産技術協会では2002年度から委託する畜産技術の研究開発課題を次のとおり募集（2001年度に募集、審査を実施）します。

対象課題：

「食料・農業・農村基本法」により国が定める畜産に関連する各種の計画や目標に対応し、食料の自給率向上、安定供給および農業の持続的発展、農村振興に資する次のような目的・目標の課題。

- 1) 畜産の生産性向上
- 2) 高品質・安全で特色ある畜産物の生産
- 3) 環境にやさしい畜産
- 4) ゆとりある安定的な畜産

委託の期間および金額：

原則として、1課題につき2年間の総額で500万円の範囲（単年度の場合は250万円の範囲）とします。

委託契約・委託費の交付は単年度ごとに行い、当協会の評価および課題担当者の自己評価により評価し得る成果が得られる場合に限り、次年度以降も継続して委託を行います。

委託の条件：

- 1) 委託する課題の担当者の所属は、大学・民間企業・団体等としますが、委託契約等は担当者が所属する機関の代表者で行います。
- 2) 委託した年度ごとに、所定の報告書を提出すること。
- 3) 委託終了後学会誌等に、得られた成果を当協会からの支援によったことを記載した論文等により公表すること。課題の性格によっては、その成果がマス・メディアに取り上げられる等により広報される

こと、あるいは商品として発売されること。

- 4) 他の公的機関へ申込み、あるいは既に委託を受けている同一課題は、応募できません。
- 5) この資金により特許を取得した場合、その特許権は原則として当協会に帰属し、開発者には優先使用権が与えられます。また、収益を得た場合は、その一部納付の義務が生じます。
- 6) 備品（20万円以上）は購入できません。

応募方法：

応募要領と所定の申込み様式を下記に請求し、その様式により2001年12月末までに申し込んで下さい。

応募課題の審査方法：

畜産技術協会内で一次評価を行った上、別途設置する審査委員会の審査を経て選定します。選考は提出書類によりますが、必要に応じ現地調査等を行います。

応募課題の採否見込みをなるべく早く連絡しますが、ご応募いただきました書類はお返しいたしません。採択された場合の手続き等：

委託する課題について、本事業の実施要領により、2001年度中に実施計画書のご提出をいただき、2002年4月以降に委託契約の締結、委託費の交付を行います。

採択課題の担当者名・金額は、原則として契約締結・委託費交付後に公表します。

問合せ先：〒113-0034 文京区湯島 3-20-9

（鈷）畜産技術協会 研究開発第一部

針生（はりゅう）、御代田（みよた）

Tel：(03)3836-2301 Fax：(03)3836-2302

E-mail：jlta@oregano.ocn.ne.jp

新入会用 Web site URL : <http://bunshi.bcasj.or.jp/>

**日本分子生物学会 会報**

年 3 回刊行

**第70号** (2001年11月)

発 行 : 日本分子生物学会 庶務幹事

製 作 : 学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所